

第3期中期目標期間における業務実績に関する評価結果の反映状況について

第3期中期目標期間(平成27～30年度)に係る評価結果における指摘事項	令和元年度及び令和2年度の業務運営への反映状況
<p>県内企業ニーズが高まっているAI・IoT・ロボット等先端技術を活用した取組を支援すべく、とっとりIoT推進ラボ等県内外関係機関・プロジェクトと連携しながら、当該技術の実装支援拠点機能を整備し、これら拠点機能の発揮により県内企業の生産性向上に貢献すること。</p>	<p><b>【令和元年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AI・IoT・ロボット等を活用した生産性向上の事前検証を行う“実装支援拠点”「とっとりロボットハブ」を令和元年12月に開設（経済産業省の補助事業を活用）。</li> <li>関心のある県内企業技術者に対して、講習会形式や実習形式などにより人材育成を実施。</li> <li>画像認識、ピッキング、搬送等の関連する要素技術研究に着手。</li> <li>県内関係機関へ拠点開設を周知するとともに、県が実施するMONOZUKURI エキスパート事業にも参画して個別企業の課題解決を支援。</li> </ul> <p><b>【令和2年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>“とっとりロボットハブ”を活用した県内企業技術者の人材育成を県委託事業により実施し、当該分野の中上級技術者の育成に取り組む。</li> <li>引き続き、生産性向上に繋がる研究開発を行う。</li> </ul>
<p>関係機関と連携したプロジェクト実施に際しては、センターがイニシアチブをとり、時代の変化に的確に対応した研究活動・支援活動等の推進を求めたいことから、企業の現場課題を関係機関と共有し解決策を検討する場を設けるとともに、センター内におけるコーディネート型人材・プロデュース型人材の育成に努めること。さらに、センターが提供するサービスの質の向上をより一層図っていくため、センター内の人材も組織単位ではなく、多様な考え方を取り入れることも視野に含め、企業等からの研究員派遣やクロスアポイントメント制度の活用など、県内外の支援機関や企業等から迅速に技術支援人材の確保を図っていく取組を推進すること。</p>	<p><b>【令和元年度】</b></p> <p>当センターの呼びかけにより、次の新たな取り組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県産業振興機構、鳥取県信用保証協会の職員と合同で企業訪問調査を行い、企業現場の実態把握を行った。</li> <li>産業技術総合研究所産総研イノベーションコーディネーターと連携し、県内企業が抱える技術課題の掘り起こしとその課題解決を行った。</li> <li>産業技術総合研究所有機材料・バイオ部門研究員とセンター職員との交流会を実施した。さらに、産業技術総合研究所の研究職員を1ヶ月間、現場研修として受け入れた。</li> </ul> <p><b>【令和2年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度の合同企業訪問の経験を活かして、その他の関係企業も含めた総合的な支援活動を模索、実施する。</li> <li>産総研イノベーションコーディネーターと連携して、さらに発展的な連携活動を提案し、産業技術総合研究所との連携を深める。</li> </ul>
<p>海外市場展開を目指す業種や企業も増加しつつあり、引き続きHACCP等食品認証取得支援に取り組むほか、EMC規格（電磁波規格）やCEマーク（EU圏内における製造品規格）等製造品国際規格認証の取得支援についても、JETRO等関係機関と連携して取り組むこと。</p>	<p><b>【令和元年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>センター内にHACCP等食品認証取得支援に関する相談窓口を設置し、事業者からの相談対応や専門機関へのナビゲート等を行うとともに、食品安全規格等の研修会を実施した。</li> <li>国際規格認証取得を検討している企業からの相談に対応するために、JETROやMTEP等関係機関と連携する体制とした。</li> </ul> <p><b>【令和2年度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、センター内にHACCP等食品認証取得支援に関する相談窓口の設置や国際規格認証取得支援機関と連携の強化を図りながら、関係機関への支援を行う。</li> </ul>